

仕事を通しての

自己の成長 Story



私がプロ社員になったターニングポイント

私は大川印刷の役員面接で、「あなたの仕事に対するモットーは」との質問に対し、「感じることを大切にしています」と答えました。これは彫刻家の佐藤忠良氏が美術教育に際し、いちばん大切なことは感じることを育てることだと語っていることを知り、わたしの仕事にも通じることだと感銘を受けたからです。

私は大学（商学部）在籍中に、好きなデザインを学びたいと思い、デザインプロダクションでアルバイトをし、そして幸いにも卒業後その会社に就職をすることができました。社長は日系アメリカ人で、当時、電通の顧問でもあり、アメリカバドワイザーのデザインをし、高い評価を得ていたデザイナーでした。

社長はアメリカ在住の方が長く、日本語の難しいニュアンスは通じず、良い仕事をしないと「馬鹿！」と言って方をたたきただけでした。

また、私をこの道に導いてくださったアートディレクターも仕事のチャンスはくれても、細かいアドバイスはしてくれませんでした。

製作の手順は、先輩から見よう見真似で学び、あとは自分で考えろという事でした。みんな制作に妥協することのないスタッフであり、私は多くのことを学ぶことができました。会社には営業はいませんでした。デザイナーが直接お客様と話しをし、お客様の要望を的確に感じ取る、これが会社の方針でした。

試行錯誤の数年間でしたが、良い仕事をするためには、お客様はもちろんのこと、自分の仲間、外部スタッフを尊重し考えを感じとり、